

令和3年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設

公の施設の名称	宝塚市立安倉児童館				
所在地	宝塚市安倉南1丁目2-1				
指定管理者	団体名	社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会	指定期間	開始日	平成30年4月1日
	所在地	宝塚市安倉西2丁目1番1号		終了日	令和5年3月31日
選定方法	公募		評価実施年	指定期間5年のうち3年目	
施設設置目的	児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにするため。				
主な実施事業	①子どもの居場所づくり事業 ②地域子育て支援拠点事業 ③子ども、子育て家庭を中心とした地域のネットワークづくり事業 ④出前児童館事業 ⑤障害者支援センターとの複合施設としての連携事業				

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a 利用人数	人	16,800	15,159	16,700	14,340	15,000	11,682	12,500	6,669
b 1日当たりの平均利用者数	人	-	53.57	-	50.85	-	44.42	-	27.67
c 出前の利用者数	人	-	7,138	-	3,674	-	4,284	-	686
d									
e									

3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区分		平成29年度決算	平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度決算
収入計	A	21,008	20,998	21,074	21,058
指定管理料		20,948	20,948	20,987	21,025
利用料収入	C	0	0	0	0
自主事業収入		0	0	0	0
その他		60	50	87	33
支出計	B	20,704	20,462	20,449	20,457
指定事業費		20,704	20,462	20,449	20,457
内、人件費	D	15,350	15,242	15,726	15,238
内、再委託料	E	1,844	1,907	2,036	2,189
自主事業費		0	0	0	0
事業収支	A-B	304	536	625	601
利用料金比率	C/A	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
人件費率	D/B	74.1 %	74.5 %	76.9 %	74.5 %
再委託費比率	E/B	8.9 %	9.3 %	10.0 %	10.7 %

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。

・着色セルは、自動計算としている。

・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、R2. 4. 1~5. 31の間臨時休館。 R2. 6. 1~6. 15の間は未就学児親子のみ再開。R2. 6. 16~ 全面再開。 その後は、人数制限等を行いながら、開館。緊急事態宣言発令のため、1月8日~3月21日 は、開館はするが、プログラムは中止し、人数の制限等行った。
------	---

4 評価

注)自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目	評価基準	自己評価	所管評価	
①サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。 必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
	外部委託	事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。	B	B
		外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。 外部委託業者に対して協定書等を遵守させている。	A	A
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	A
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令等を遵守している。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。	A	A
	情報公開	情報公開に関する法令等に準じた運用を行っている。	A	A
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A	A
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
	連絡調整	点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。 市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。		A	A	
緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。 緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	A	A	
財務状況	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準18項目/本施設_項目】	A	A	
②サービスの質の評価	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	A	A
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	A	A
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。 言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	事業運営	事業計画に即し、受託事業を実施している。	A	A
		施設の目的に添った自主事業を実施している。 事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	A	A
	維持管理	仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。	A	A
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。 備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	A	A
	環境配慮	協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A	A
	広報活動	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	A	A
	苦情等対応	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	A	A
苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。 要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告している。	A	A	
利用者アンケート等	利用者アンケート調査等を実施し、その結果が妥当である。	A	A	
利用状況	利用者数、稼働率等は、目標に対し妥当な水準である。	B	B	
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準18項目/本施設_項目】	A	A	
③安定性	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	A	A
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	A	A
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	A	A
《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設_項目】	A	A	
指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、児童館内での活動が制限された1年であった。特に子育て支援世代では、地域の保護者や子どもが行くところ、相談するところがなく困っている方が多かったので、閉館中も相談事業の継続を意識して行った。健全育成事業では、地域の子どもの読書離れをとめようと、1年にわたり、図書室の整備を行った。全く興味がなく、本に向かわなかった児童が借りていく姿が出てきた。又宿題も児童館で行い、利用人数が少ない分、ゆつくりと子どもたちの学習支援にも取り組めた。今後は、この1～2年で大きく子どもたちの環境が変わったので、新しいニーズを探り、安全に気をつけながら、できる活動を増やしていきたい。			
施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)	コロナ禍において、子どもや親子にとって何が必要かを考え、また、利用者の人数制限をするとともに、感染症対策を講じた遊びやプログラムを提供(その都度消毒作業を実施)するなど、安全に安心して過ごせる環境を整え運営してこられたことを評価する。 倉倉児童館については、地域や関係機関、利用者との信頼関係が整っていることに加え、利用者の声を汲み取り、相談事業等の充実を図るなどサービス向上に努めていることにより関係機関との連携も強くなっている。これまでの実績を活かし、地域や小学校、関係機関と連携することにより、今後も利用者の確保と多様なニーズに対応する支援の充実に努めていきたい。			
前年評価	A	総合評価	A	

※評価区分

評価基準:	S	= 協定書等の水準を大きく上回っており、優良である。
	A	= 協定書等の水準を満たしており、良好である。
	B	= 協定書等の水準を満たしているが、一部改善が望ましい。
	C	= 協定書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。
《総括》:	S	= 評価基準が全てA以上であり、かつSが過半数である。
	A	= 評価基準のうちBが3割未満で、Cがない。
	B	= S、A、C以外
	C	= 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S	= 自己評価、所管評価の《総括》にB・Cが含まれず、かつSが過半数である。
	A	= 自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、Bが2つ以下である。
	B	= S、A、C以外
	C	= 自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。